

Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 東京多摩グリーンロータリークラブ

1993~1994年度クラブ目標 “出会いを大切にしよう……例会で、みんなが、待っている”

第159回 例会報告 (2/2)

司会者 SAA

須藤 起雄

◇点鐘

会長 横倉 舜三

◇ロータリーソング「国家」「我等の生業」

ソングリーダー 吉沢 洋景

◇お客様紹介

会長 横倉 舜三

菅原 隆 様

(Jリーグ 横浜マリノス)

◆ 会務報告 会長 横倉 舜三

前回報告いたしました、95年~96年度ロータリー財団国際親善奨学生としての応募がありました2名についてスポンサークラブとして次の会員を顧問ロータリアンとしてカウンセラーをお願いすることにいたしました。

○ 斎藤正樹 候補生には、横倉 譲会員を

○ 奥田博子 候補生には、小城 章会員を

それぞれお願いいたします。

◆ 幹事報告 幹事 北村 幸彦

1) 例会臨時変更のお知らせ

東京五反田ロータリークラブ

2月28日(月) → 3月4日(金)、5日(土)

地区大会に振替

4月 4日(月) → 移動例会に振替

2) 地区大会登録について

すでに登録料はまとめて送金済みですがまだ登録希望者がおられましたら至急事務局まで振り込んでください。

締切りは9日迄です。

3) 高村会員よりクラブに香典返しをいただきました事をお伝え申し上げ御礼申し上げます。

4) 杉田会員が階段から落ちてけがをされました。入院するほどのことではありませんが出席もメイキャップもできない状態でした。しかし来週には多少顔は乱れておるが出席したいとのことです。

◆ 次年度会務報告

会長エレクト 宮本 誠

本日の被選理事会で、お配りした一覧表の如く、最終的委員会組織を決定。次週2月9日 6:30PMより第1回被選クラブ協議会を行う。各委員長、役員、理事は出席されたい。

委員会報告

◆出席委員会 委員長 遠藤 二郎

	総数		MU	欠席	出席率
本 日 報 告	53	47	0	6	88.68%
前 回 訂 正	53	46	4	3	94.34%

メイクアップ なし

欠席届出者

森田 舞子、杉田 誠、高野 範城

横倉 譲

欠席者

伊神 稔

<例会出席率向上に関してのご意見募集>

平素例会出席率向上に御協力を頂きまして厚く御礼申し上げます。

プログラム委員会、親睦委員会、SAA委員会等、関連委員会の御努力に因り、毎週明るく楽しい例会が開催されておりますが、ここ数週連続して出席率が低迷しております。当委員会と致しましては例会出席率向上の為の方策を模索致しております。会員皆様のご意見、アイデア等、お聞かせ頂けたら幸いに存じます。

FAX 74-5284

◆親睦委員会 委員長 吉尾警太郎

☆誕生日祝 足立 潤三郎 会員

★★★★★★★★★★
ニコニコBOX
★★★★★★★★★★

委員 小林 和夫

吉沢 洋景 1月は、夫婦で誕生日祝を頂戴いたしました。

伊藤 英也 結婚記念ありがとうございます。

海野 栄 一家内の誕生日祝いをいただきました。

小林 和夫 妻ノバースデイノオ祝オカサネ
テイタダキ大変カンゲキイタシマシ
タ

佐伯 和廣 まだまださむいすね

関岡 俊二 明日は節分、もうすぐ春ですね。

萩生田茂夫 大雪のため、仕事が出来ず長い休養
を取りました。御陰様で元気です。

高村 弘 昨年暮には大変お世話になりました
たが御陰様で母親の納骨が終わりました。

須藤 起雄 早いですね。立春です。

根本 泰守 妻の誕生祝ありがとうございます
た。1/28日といいましたが1/29日だ
そうです。怒られました。住民票で
確認

北村 幸彦 フキヨウと雪で泣いています。

大松 誠二 サインバイノウ募金もうすぐ目標達
成です。いまま少しのご協力を

宮本 誠 素晴らしい天気で

国際大会参加者 国際大会参加

以上 合計 34,073円

サインバイノウ募金	17,000円
	合計 317,000円
目標	400,000円
残	83,000円 もうすこし!!

◆ロータリー豆知識

ロータリー情報委員長 赤尾 恭雄

豆知識：「ロータリーの目的とサービス」ということで、ロータリアンとしての行動基準の様なことです。

今月は「世界理解月間」です。

2月23日は本クラブの最終例会ですが、ロータリーの創立記念日に当たります。

染めと織り

あまみ 奥田 文夫 様

私の所は呉服全般の卸、小売りをしていいますが、特色は本場の大島紬を織っている機屋(ハタヤ)でもあります。

奄美大島の機屋というのは、繭から糸を引き出し、染色し、機織りをします。

大島紬の反物は繭から約1年、30工程以上を経て出来るのですが、そのきわだった特徴は泥染めと、締め機、高機の2回織りです。

今日は、そのうち染めの話を中心にさせていただきます。

今日、私達の身の回りは色彩にあふれていますが、これらはほとんどが化学染料によって色付けされています。しかしこれらの色はたかだか100年位の歴史しかなく、古来、私達が馴れ親しんできたのは植物染料です。

植物染色は千差万別です。

染色の世界では48茶100鼠と言います。一口にグレイと言っても、100の鼠色があり、これに濃淡を含めれば何百種類にもなるのです。

鼠色の原料は橡、榛、梅、桜、蓬、バラその他の野草、ほとんどの植物からこの色を引き出せます。そして呼び名も銀ネズミ、素ネズミ、時雨ネズミ、深川ネズミ、数寄屋ネズミ、源氏ネズミ、夕顔ネズミ、と言うように、原料毎に風雅な名前がついているのです。



茶色も、江戸茶、路考茶、相伝茶、黄唐茶(キカラチャ)、藍海松茶(アイミルチャ)等あり、男の渋さを引き立てるため特別な銘名がされています。

紫は紫根に椿の灰汁を媒介にしてはじめて高貴な紫色が引き出せるのです。

そして、植物染色の難しさは見た目どおりの色が出せないということです。

例えば、桜が満開、この色を再現したいといって、花を集め、絞って、桜色の水に糸をつけても、桜色は出てきません。

美しい桜色を出そうとするなら、今まさに開花しようとする寸前の木を切り、表皮をはがし、木片にして煮詰め、その液に浸してから、やはり桜の木を焼いた灰汁の上澄液につけると初めて桜の精が糸に乗り移り、美事な桜色が出てくるのです。

これを媒染と呼んでいます。よく、あく抜きという言葉が使われますが、植物染色では木灰汁がないと本物の色が出ないのです。

そして植物染色の極め付けは藍染めです。日本の女性には、とりわけ藍の着物が似合うのですが、最近では本物の藍染めが少なくなりました。これは藍建てといわれる作業が大変だからです。特に藍は生き物だと言い、かめの中に入れて、醗酵するまで、常に昼夜人肌温度に保ち、毎朝夕、必ず静かに攪拌し時には上等の山いもや、水飴等を入れて、藍のご機嫌を伺い、艶々として紫紺色の気泡が表面に盛り上ってくるまで待たねばならないのです。これを藍の花が咲くと言いますが成功するまで、カンの鋭い人でも10年はかかると言われています。これがその藍染の布です。

特に奄美大島紬では泥染めと、藍染が基となっています。

< 泥染 >

この染め方は奄美諸島でしか行なわれていません。その訳は、この島の田んぼの鉄分が特に強いからです。鉄分が多いと土が酸化して、稲作用の田には向きません。植物栽培に向かない田を染色に活用したのは古代人の知恵です。

泥染は、最初、テーチキ(車輪梅)をきざんだ木片をググッと煮つめ、糸を茶色の汁につけて染色をします。この汁に4回、つけては干し、つけては干ししてから、泥田(文字どおりドロドロの田)に持って行き、何度も何度も付け染めします。この工程を50~100回繰り返すと、テーチキのタンニン酸と泥田の鉄分がほど良く融合して、細い絹糸が軽くて丈夫で、しなやかに、しかも脱色しない奄美大島紬特有の糸に染め上がるのです。

< 泥藍染 >

中でも泥藍は仕上がるまでに手数が掛ります。一度先程の工程の泥染めをしたあと、薬剤を用いて脱色し、改めて藍液に浸します。最初は何度か染色に使用したものから順次、新しい液へ移るようにし、一回の染色ごとに、平均に十分絞上げ、空気にさらして酸化発色させるのです。

こうして染め上げた経糸、緯糸を図案どおり着色してから織機に掛け一反、1~2カ月かけて織っていくのです。

奄美大島紬は織りの密度で世界一の織り物と言われ、着物にして着用しても100年は保

ち、柄に流行もありません。かつて将棋の大山名人が大島紬の羽織り、着物を着てから肩こりしなくなり、対局しても負けなくなったと言われています。

この位、手数を掛けて染色し、織るのですから価値が高くなるのは仕方ありません。

現在、奄美大島ではクサイ、キタナイ、キツイ、その上に工賃が安いとあって、1000年以上も続いてきた、伝統産業から若者がどんどん離れていってしまいます。

これを機会に是非、奄美大島紬をご愛用下さるようお願いします。



東京多摩グリーンロータリークラブ



会長：横倉 舜三 副委員長：森田 舞子
幹事：北村 幸彦 委員：海野 栄一・奥木 博勝・吉沢 洋景
会報委員長：小島 周二郎 小坂 一郎・佐伯 和廣

※例会場 多摩そごうデパート7F サファイヤバンケットルーム

事務局：東京都多摩市落合547
多摩センタービル7F
TEL 0423(72)6463/FAX 0423(72)6491

※例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30